

平成27年度北海道農産物鑑定研修会

日時：平成28年1月28日(木)10:00

場所：北農ビル19階(札幌市)

本会が平成13年に北海道第一号の民間登録検査機関となり、5年間の移行期間を経て、平成18年より完全民営化による独自の教育訓練を実施するようになってから今年度の研修会がちょうど10回目の節目となります。そこで今回は、通常の鑑定研修に加え、「特別講演」の開催や過去の成績優秀者には「検査員特別表彰」等を贈呈する等の記念研修会と致しました。

主 催 者 挨 拶



一般社団法人 北海道米麦改良協会

内田和幸 会長理事

検査員の豊作基調であった平成27年産での検査業務等への労いと、農産物検査は物流の基本であり、更に精米表示の根拠や各種制度資金交付の要件に活用されるなど、農家経済にも関わるほど重要な業務であり、常に信頼性と公平性の確保について求められています。検査員の自覚はもとより、当協会としても検査員の皆様の鑑定技能の維持・向上に向け、平成18年より完全民営化による独自の教育訓練を実施するようになってから今年度のこの研修会がちょうど10回を数えることになったことから、平成13年に北海道第1号の民間登録検査機関となり、5年間の移行期間をへて、本日はこの10回目の節目となる特別な研修会のために、研修会全般を通じて10年の重みを実感すべき記念研修会となりました。

また、今後も鑑定技能における地域のリーダーだけでなく、地元の同僚・後輩の登録検査員に対し、関係法令・本会業務規程に基づく適正な農産物検査の実施についての指導的役割を發揮して頂くよう、大いに期待する旨の挨拶がありました。

来賓挨拶



北海道農政事務所 生産経営産業部
業務管理課 森田宏美 課長

農産物検査は農産物の公正かつ円滑な取引と、農家経済の発展と農産物消費の合理化であり、精米表示や交付金の数量払いの根拠等に使用されている旨の検査の意義や目的について述べました。また、検査現場においては年産や等級証印等の押印もれ、検査請求がないのに検査証明を行っているなどが無き様、特に注意が必要である旨のご指導の他、農産物検査は、鑑定研修会や日頃の検査で研鑽した適正な格付等を推進。検査マニュアルや業務規程に基づいて適正に実施していくことが重要であり、職場でもしっかりと伝えていくことの重要性についても強調しました。

<玄米>



<玄米>



<小麦>



<小麦>



<大豆>



<大豆>



特別講演



北海道農政事務所

鶴見和良 所長

各種農業政策や関連予算、今後の農業を取り巻く国としての基本計画について等、具体的な事例を用いながら講演を頂き、受講者は普段なかなか知ることのできない内容を熱心に聞き入っていました。

受講風景



検査員特別表彰

過去の鑑定研修会において、最高点を収め、かつ現在も検査実務責任者等としてJA等内で中心的に活躍している農産物検査員を種類ごとに表彰致しました。

受賞者

水稻うるち玄米 :JAたきかわ 伊藤 治(農産販売課長)

普通小麦 :JAこしみず 古川 慎也(農産課長)

大豆 :JA今金町 坂上 信彦(販売課職員)



伊藤氏



左から 坂上氏 内田会長 古川氏

本年度の成績優秀者表彰

本年度の鑑定品については、米陀技監より「等級」を、内海技監より「鑑定講評」を発表し、各部門の成績優秀者を選出致しました。

<玄米最優秀者>



左から 瀧氏 成田氏 木下氏 内田会長

■水稻 うるち 玄米の部

最優秀賞	JA南るもい	木下 寛之
優秀賞	JAみついし	成田 薫
優秀賞	JAびらとり	瀧 裕太郎

<小麦最優秀者>



左から 角玄氏 石山氏 村山氏 内田会長

■普通小麦の部

最優秀賞	JA摩周湖	村山 克久
優秀賞	JAえんゆう	石山 善春
優秀賞	JAさらべつ	角玄 真也

<大豆最優秀者>



左から 大西氏 林氏 安藤氏 内田会長

■大豆の部

最優秀賞	JAきたひやま	安藤 隆一
優秀賞	JA道央	林 純市
優秀賞	JAきたそらち	大西 崇之

閉 会 挨拶

一般社団法人 北海道米麦改良協会

内田和幸 会長理事

今回第10回目を迎えられた御礼と、全ての登録検査員は組織の財産であり、北海道農産物の信頼の源にもなっていることから、引続き技術の研鑽を行なって欲しい旨や地元に戻ったら、地域のリーダーとして活躍して欲しいと訴えました。このほか、業務は鑑定技術のみならず、関係法令等の遵守に向けて、同僚・後輩への指導的役割も発揮して頂くよう期待している旨の挨拶がありました。